

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

東京信用金庫（証券コード：-）

【据置】

長期発行体格付 **A-**
格付の見通し **安定的**

■格付事由

- 東京都豊島区に本店を置く資金量 1.2 兆円の大型信用金庫。都内の豊島区、板橋区、練馬区、新宿区や埼玉県南部などのビジネスチャンスの豊富な地域に主要な営業地盤を置いている。預貸金業務に重点を置き、定期積金を中心とした対面営業とスピーディーな融資対応を軸としたビジネスモデルを構築している。こうした営業地盤やビジネスモデルを背景にコア業務純益は長期的に増加している。また、内部留保の蓄積によりリスク量対比でみた資本の余裕度が高まっている。国内金利の上昇が追い風となり、コア業務純益、資本充実度の改善が持続する可能性は高いと JCR はみている。
- 基礎的な収益力は比較的高い。ROA（コア業務純益ベース）は 0.4% 台後半と A レンジで上位を維持している。コア業務純益は貸出金残高の積み増しを背景とした利息収入の伸びがドライバーとなり、長期にわたり増加している。25/3 期上半期では、預金金利の引き上げによる資金調達費用の増加や、人件費を中心とした経費の増加が利益の下押し要因となったが、前年同期を若干上回る水準を確保した。コロナ関連融資の返済を借換保証制度やプロパーの事業性融資で打ち返している実績を踏まえれば、中小企業向け貸出は当面も底堅く推移すると考えられる。今後、国内金利の上昇に伴う貸出や市場運用資産にかかる増収効果が発現することも踏まえれば、コア業務純益の水準は一段と高まる方向にあると JCR はみている。
- 金融再生法開示債権比率は 24 年 9 月末 2% 台前半と低い。また、与信費用はコア業務純益に対して一貫して低位に抑えられており、25/3 期上半期では戻入であった。貸出金残高の半分を占める不動産賃貸業向け与信については、自己査定を保守的に行っていることもあり、その他要注意先のウエートが大きい。もっとも、保全が効いていることや物件の立地条件が良好であること、審査や途上管理も厳格に行われていることなどを勘案すれば、インフレや金利上昇が進む局面においても、当面、与信費用が大きく膨らむ可能性は低い。
- 有価証券運用におけるリスクは抑制されている。余資の 7 割を預け金で運用しており、預証率は 10% 台半ばと低い。ポートフォリオは円債が中心であり外貨建債券への投資は行っていない。金利リスク、価格変動リスクは資本対比で小さくコントロールされている。
- 資本充実度は A レンジ相応の水準にある。貸倒引当金を控除した調整後コア資本比率は 24 年 9 月末 10% 台前半。今後も内部留保の安定した積み上がりが見通しやすく、中小企業向け貸出を中心にリスクアセットが増加する中でも、資本水準の改善が持続すると JCR はみている。

（担当）南澤 輝・青木 啓

■格付対象

発行体：東京信用金庫

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2025年3月6日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：南澤 輝
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 東京信用金庫
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル